

平成28年度 第1回釧路市強靱化計画有識者懇談会
議事要旨

- 1 日 時 平成29年2月10日（金）
午後1時45分～午後2時45分
- 2 場 所 釧路市役所 本庁舎2階 第2委員会室
- 3 出席者
 - (1) 委 員：金子委員、小磯委員、鈴木委員、高橋委員、
畑委員（五十音順）
 - (2) 釧路市：名塚副市長、岡本総合政策部長、中村防災危機管理監
太田基本構想主幹、平間主査、沼尻主任
- 4 内 容
 - (1) 開 会
 - (2) 委嘱状交付
 - (3) 副市長挨拶
 - (4) 委員紹介
 - (5) 要綱確認
 - ・釧路市強靱化計画有識者懇談会設置要綱に基づき事務局より説明。
 - ・会議の成立を確認。
 - (6) 座長選任
 - ・事務局案として座長に小磯委員を指名。
 - ・全会一致で事務局案のとおり、小磯委員が座長に選任
 - (7) 座長挨拶
 - (8) 議事
 - ①釧路市の自然災害について
 - ・資料1に基づき、事務局より説明。

② 釧路市強靱化計画の策定について

ア 釧路市強靱化計画の概要

- ・資料 2 - 1、2 に基づいて事務局より説明。

イ 釧路市強靱化計画の策定に向けた論点整理

- ・資料 3 に基づいて事務局より説明。

意見交換

(○は委員の発言、◎は座長の発言、●は事務局の発言、
以下同じ)

◎ はじめに、この強靱化計画では防災計画と強靱化計画の分かりやすい全体のコンセプトの整理が必要であり、資料 2 - 1 の図は札幌市の強靱化計画を策定していく中で、防災計画と強靱化計画の違いを分かりやすく説明するために作成したもの。

これまでの防災計画では自然災害は防がねばならないという考え方で作られてきたが、東日本大震災の教訓として防ぎきれない災害が存在し、事前の準備として減災に取り組む中で、短期的な予防というより社会経済システムの中に大規模災害に備える仕組みをどう構築していくのかというのが大切な論点である。

全国的には地域防災計画に近い強靱化計画もあるが、北海道は、国の自然災害、主に首都圏に大きな被害があった場合に北海道が国を支えていくといった対応策まで含めたソフトな計画になっており、それが北海道の計画の特徴だと思う。

釧路市の場合はどこを目指すかが議論のポイントになると思う。

順次委員から所見を頂きたい。

○ 1 点目は、防災計画を策定するうえで危機感の共有が重要であり、強靱化計画を策定するにあたってリスクシナリオを具体的に議論し皆で共有するところがスタートになるのではないかと。

2 点目はこの強靱化計画で社会経済システムを変えるところまで踏みこむとなると、短期的な視点、長期的な視点を持ち時間の感覚をどのように強靱化計画に入れていくのかが重要である。

最後に、強靱化計画は全体を俯瞰して見る必要がある。

- 身近なところで、現在、釧路市の水産港湾空港部を中心に港湾BCPが策定され、私の会社でもBCPを策定した。

その中で港湾に関係する企業で年に1～2回訓練を行っているが、訓練を繰り返すうちに問題点も認識できるのではないかと感じており、具体的に行わなければわからないこともある。

釧路市で強靱化計画を策定していくにあたり釧路市の特有の状況を考慮し具体的な危機を想定しないとわかりづらいのではないかと。計画を公表した際にも市でなにか作ったなということで終わってしまうので、まとめ方や発表の仕方も重要だと思う。

他地域が自然災害による非常事態の際に、支援物資を運ぶなどといった広域連携について、釧路市が貢献できることを計画に盛り込んでいくことで、より総合的な計画になるのではないかと。

- 災害に対する予防について、地域防災計画でも具体的な記載もあるが、強靱化計画では、例えば鉄道高架や避難ビル、緊急避難ビルを増やすなど、より具体化していくものと感じた。

ハード面でのゴールが鉄道高架になるのか、ソフト面ではBCPの浸透がゴールになるのかもしれないが、強靱化計画は策定した時がゴールではなくスタートになるのではないかと。

- 強靱化というとハード面の強化を行うイメージがあるが、ソフト面とのバランスをとりながら策定することや過去に霧による災害なども見受けられることから、地域特性を考慮した災害についても検討が必要である。

交通についても今年の台風が原因でJRや一般道が不通になるなど被害があったが、やはり複数の交通網、手段があるという重要性を感じた。陸路だけでなく海路の活用も考えられる。

災害時、行政がきちんと機能していくかということが心配であり、それに対応できるよう周辺自治体や広域で相互支援していくことが重要だと思う。

被災し復興を検討する時には、住民データの保存が重要であり、土地所有者及び土地境界の確定についても準備しておく必要

がある。また、年末に新潟県で発生した大規模火災の例にあるように、木造家屋が狭い道路に面して密集している地域があり、そのような古い街区の整備についても考慮する必要がある。

- ◎ 皆さんの発言を私なりに理解すると、これまで国や道の強靱化計画が策定されてきたが、釧路という地域に密着した強靱化計画にしていくために地域の具体的な特性をもった計画にしていくという方向は同じであると感じた。

強靱化という言葉の難しさが強靱化計画の一番つらいところ。

強靱化計画イコール公共事業の推進というイメージがあるが、本当の理解を踏まえて議論していく必要がある。

もともと強靱化というのは「レジリエンス」であり、心理学的には「レジリエンス」の反対語は「ストレス」である。我々も神経的、精神的なダメージを受けにくい心の持ちようというものが大切だが、それを自然災害にしっかり耐えていく一つの地域づくりに展開していこうというのが強靱化計画の意義である。

強靱化計画はこれまでの防災計画なり個別の積み上げだけでなく、全体でどのように強靱化していくか、ストレスに対峙しながらどのような地域づくりをしていくのか大きな横軸の議論が強靱化計画には必要である。

北海道強靱化計画の重点化の議論の際に、私から防災の為だけの施設を作り災害が起これなければ使えないといった施設は低位に置き、いざという時に役にたつが、平時でもしっかり役に立つという施設を高く置き優先的に進めていこうと提案をしたことがある。

さきほど釧路市の防災庁舎の話があったが、これはいざというときに有効だが、平時でもしっかりと活用している。

そのような多様性、多面性を社会システムとして考えていくことが強靱化であるという話もした。

また、他地域との広域連携の話があったが、大事な視点であり、強靱化の議論は釧路地域だけにとどまるものではなく、広域的な視点が必要となる。ただし、どこまで幅を広げていくかということも考えていく必要がある。

すべてを計画に盛り込むのは難しいと思うが、事務局で様々な

方と意見を交わし計画策定を進めていくといいのではないか。

(9) その他

- ・次回日程について事務局より説明。

5 閉 会